

保護者との提携研究部会

I 研究テーマ

「子どものしあわせを求めた保護者・地域との望ましい提携のあり方」

一 子どもや地域の実態を踏まえた効果的な提携 一

II 研究テーマ設定の理由

教育格差・地域格差の拡大や、急激に進行情報化などの問題の顕在化が著しく進行している日本において、「開かれた学校の推進」「信頼される学校」は、約四半世紀が経過し、全国の学校で取り組まれる重要な課題となってきた。学校施設の開放から始まり、地域の人材や教育資源の活用、学校教育と地域教育の連携教育、学校評価などについても各校において重要課題として継続的に取り組まれている。

このような状況の中、本部会は、その時々を教育を取り巻く情勢に合わせた課題を設定し、保護者・地域との有効な連携のあり方について研究を行っている。近年では、主に「安全」または「教育・文化活動の推進」の項目について、地域・保護者との効果的な提携を探る研究及び研修を進めてきている。また、この成果を各校の活動の参考にしているところである。

近年は東日本大震災の発生を受け、各校とも防災教育の充実と危機管理体制の再点検を重点的に取り組んでいる。危険等発生時対処要領の見直しから始まり、震災発生まで見落としていた課題の明確化やその改善はもとより、児童生徒の通学を含め、想定できうる状況に合ったマニュアルの作成が進められてきている。特に震災対策として、甲府市においては、市当局が主体となり、地域・行政・学校が一体となった防災訓練が今年度で2回目を迎えた。この中では地域住民はもとより、児童生徒にも広く参加を呼びかけるとともに学校教職員も多数参加するなかで、消火訓練や避難所の簡易パーテーションや簡易トイレの設置訓練を通し、三者で防災意識の共有化を図っている。

また、これまでも学校教育において地域の人材や教育資源の活用の研究を進めてきている。昨年度の研究では、これまで地域の人材活用が各学年・特別支援学級が単独で進めている傾向を踏まえ、貴重な人材情報の校内での共有化を図り、児童の一人ひとりの学びを充実させるだけでなく、教職員の負担軽減を図る研究がなされ大きな成果を得ることができた。

これまで本部会において多くの成果を得ることができたが、反面、課題も浮かび上がってきている。新たな組織が立ち上げられ、多様な活動が創造されてきているが、その活動の拡大や継続性においてその難しさも現れてきている。学校が本来の教育機能を発揮し、教育目標を具現化していくためには、学校・家庭・地域が「信頼」の輪で結ばれることが必要である。また、

家庭や地域が本来の教育機能を発揮するためにも同様なことがいえる。お互いがその「信頼」で結ばれた関係づくりに努力し、「連携」「提携」することで学校だけではなく、家庭や地域にもメリットが保障されなければならない。この観点を常に携行し、地域・保護者との提携を計画・運営していくことで活動の拡大や継続が期待されるであろう。これまでの研究成果と課題をふまえ、本年度においても研究主題を「子どものしあわせを求めた保護者・地域との望ましい提携のあり方」と設定して研究を進めていくこととした。

Ⅲ 研究の経過と内容

1 研究経過

4月11日(木)	【貢川小】	研究部員確認 組織決定 研究方針の検討
5月14日(火)	【南 中】	研究方針の決定 研究計画の決定
6月18日(火)	【池田小】	実践事例提案と討議
7月31日(火)	【県立防災安全センター】	臨地研修
8月16日(火)	【中道南小】	実践事例提案と討議
9月 3日(火)	【貢川小】	実践事例提案と討議
10月 8日(火)	【国母小】	実践事例提案と討議
11月 8日(火)	【国母小】	本年度の研究のまとめ1
1月22日(火)	【貢川小】	本年度の研究のまとめ2

2 研究内容

本部会は、4校5名の部員で構成されている。少人数ではあるが一校一実践のリポート報告を行い、それぞれの学校の実践事例を持ち寄る中で成果と課題や改善点について話し合ってきた。各校における実践の成果及び課題を自校での活動に生かすことができた。課題として取り上げられる点については互いに意見交換をしたり以後の研究課題としたりしている。

各校より提案されている内容は「安全確保を目的にした保護者・地域との提携」「教育活動の推進を目的とした提携」「地域との連携」「非常災害時における学校と地域との連携」「地域の行事を取り入れた授業」「通学路の安全」等実に多岐にわたっている。各学校・各地域での保護者や地域との連携は開かれた学校づくりや特色ある学校づくりと相まって確実に進んでいることをうかがわせるものであった。今後も子どものために地域・保護者との効果的な連携を図る中で本部会の研究の充実を図っていきたいと考えている。

(1) 実践事例提案と討議①

- ・学校応援団（ボランティアの活用）
- ・安全パトロール
- ・コミュニティスクール，地域の防災と学校との関わり

(2) 実践事例提案と討議②

- ・たてわり班によるフィールドワーク（ふるさとハイキング：地域学習）
- ・地域の竹林の活用（七夕，楽器づくり，花器づくり）
- ・小中連携としての引き渡し訓練

(3) 実践事例提案と討議③

- ・三世代ふれあい教室
- ・街の安全・安心を見守るボランティアの会

(4) 実践事例提案と討議④

○地域，保護者からの支援

- ・2年生活科：町探検
- ・防災支援，地区懇談会を活用した防災マップづくり
- ・子育て支援（放課後子ども教室の開設）

○学校から地域，保護者への協力

- ・文化的行事への協力（ふるさとまつりへの参加）
- ・地域活性化への協力（雪だるまづくり）

IV 成果と課題

本年度の部会では，主にどのように保護者・地域との連携を進めているかについての報告が多かった。どの実践も地域の実態に合わせて独自の活動が展開されていて，たいへん参考になる事例提案であった。本部会での実践報告は大変有意義なものが多く他校の実践内容を持ち帰り自校の活動に生かす上でとても有意義であった。しかし所属人数が少なく，所属部員も継続して部会に参加していることもあり，レポートの内容を提案していく上で苦慮してしまうこともあった。各校で抱える課題も様々であるためお互いの情報交換をし各学校の運営に活用していくためにも多くの方に所属していただき研究の裾野を広げていきたいと切に願うものである。